

# 願成寺報

平成二十年九月十三日

〒四四〇・〇八二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

一. 秋季彼岸・永代経法会のご案内

二. 本堂改修のご案内

三. 募財の結果等のご案内

四. その他

## ■ 秋季彼岸・永代経のご案内

左記により秋季彼岸・永代経の法会を勤修いたします

改修後初めての法会です 万障お繰り合わせの上 お誘い合わせてお参り下さい 秋の一日をゆったり過ごし頂ければ幸いです

九月 二十一日(日) 午後一時半 日中法要のみ

二十二日(月) 午後一時半 日中法要のみ

二十三日(祝) 午前十時 法話 岡崎市 浄泉寺

戸田 恵信 師

お非時(粗飯準備します)

午後一時

法話 岡崎市 浄泉寺

戸田 恵信 師

汁粉

## 「供養ということ」

仏説孟蘭盆経というお経があります。この内容に基づいてお盆が勤まる様になったとされています。内容を簡単に紹介して、真宗門徒として戴き直してみたいと思います。

神通第一とされる目連尊者が、ある日、その天眼通を使って亡くなっているお母様を探されました。良い処にいるに違いないと高い処からだんだんと探されましたが、見つかった場所は餓鬼道でした。哀れな母の姿に驚いて、すぐさま御馳走を送られますが、お母様には食べられません。

自分の力では母を救うことが出来ないと悟った目連様は、お釈迦様を訪ね「どうか救って下さい」と、お頼みされました。お釈迦様は仰いました。「こんどの七月十五日(安居のあける日)に、沢山の行者を集めて食事を振舞なさい。行者達の喜びの功德を手向けることで、そなたの母は救われるであろう」

目連様は、これをしっかり行い、お母様を救うことができました。

この物語は目連様の親孝行の物語ですが、少し逆さまに戴いてみたいと思います。題名の孟蘭盆は、ウラボンナ(逆さま)という意味(別説あり)なのですから。

神通第一の人・なんでも自分で出来る人は、裏返しを考えると、他人に助けてもらうことが出来ない人と言えます。目連様には失礼ですが、そのことの問題に気がつくことがない、独り善がりの生活だったかも知れません。それを憂えたお母様が、餓鬼の苦しみに耐えてまで、目連様に気がつかせようとした子孝行の物語と読むことはできないでしょうか。目連様は食事を振舞ながら、喜んで食べている仲間達に手を合わせ、今も自分を案じて下さっている母に涙し、その母を忘れていた自分の慢心が思われ、頭を下げていたことでしょう。

供養は、供養する人が供養されて、やっと成立するのだと思います。

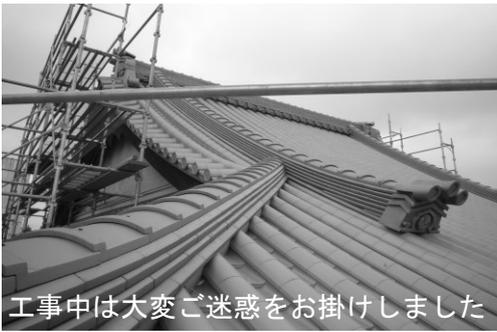
## 「本堂改修ご報告」

四月末完成予定で工事に入りましたが、七月末にやっと完成しました。御本尊様にも戻って頂き、八月十三日よりお参りして頂けるようになりました。まだまだ不十分な所がありますが、少しずつ整えて参ります。

工事中、隠れていた沢山の問題が顕在化し、一時は建替えにするべきだったと迷いましたが、完成してみても、古さと新しさ・深さと期待感が調和した感じとなり、改修でよかったと喜んでおります。

工事に携わった方々には大変お世話になりました。特に大工さん・建具屋さん・畳屋さんの傾いたものを傾いたままで直す技術と経験には感動致しました。頂いた情熱を忘れないで、丁寧に管理・掃除して参ります。

工事に際して、お同行の皆様にも大変なご迷惑とご不自由をお掛けしました。申し訳ありませんでした。本堂は、それぞれの今を喜びなおすための道場です。お念仏の声を絶やさないように、末永くお参り頂きますようお願いします。



工事中は大変ご迷惑をお掛けしました



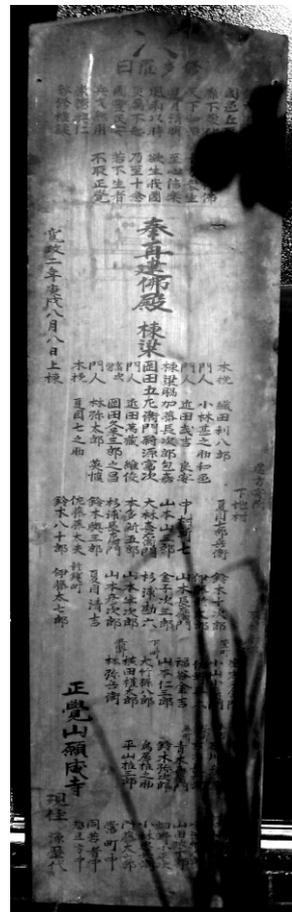
掲示板など整えてまいります



内陣も綺麗になりました

## 「二つの棟札」

改修中、本堂の天井裏から二つの棟札が出て参りました。



棟札① 寛政二（一七九〇）年八月八日 再建

大飢饉など災難が続き、天明を寛政に改元したばかりの頃です。

吉田城下でも安永八（一七七九）年に四三七軒が、天明六（一七八六）年にも七七軒が焼失する大火があり、当山も類焼し全焼しました。

二度の大火から復興する執念が感じられる棟札です。



棟札② 大正十（一九二一）年十一月三十日 移転増築

大正デモクラシーの中で人々の生活がどんどん変わっていく時代です。少し前には全国で、豊橋でも米騒動が起きています。

当時当山には借金があり、指笠町の土地を売ってこれを清算し、当地に移転したと聞いています。

ユッタリした感じが、一山越えた安堵感を表している棟札です。

## 「募財の結果等」報告

皆様の篤いご理解を賜り、励まされ、ここまで過ごして頂くことができました。本当に有難う御座いました。

これまでの所、本堂修理では、先代の貯蓄・皆様からのお布施・毎年の季節毎のご懇志等にて賄うことができました。

頂いたご懇志について、皆様のお心に適うように総代会の皆様と共に考えて境内地整備など、行って参りたいと思います。

左記に募財の結果や今後の計画などご報告いたします。

### ■ 募財の結果

応募総額 二四、一五五、〇〇〇円 (三四四件)

### ■ 今後の計画

#### ● 塀の修復

今にも倒れそうな国道沿いの塀を修復します。石垣を含め、今の姿を留めるように工事します。

植栽の関係で十月から工事を始めます。

工事車両用に壊した部分は、門扉にて開閉するようにしたいと思います。

#### ● 墓地拡張

国道沿いの墓地に面した家屋を墓地にします。来年早々より着工したいと思います。

#### ● 駐車場拡張

土地の取得など少し難しい問題があります。早く整備できるように努力いたします。

#### ● 落慶法要

来年五月を予定しています。賑やかな法要を行うことで、皆様の親睦が深まり、お寺を中心とした同行の和が太くなればいいな…

と夢を描いております。

例えば、お稚児行列をやる場合、どうしても手が足りません。皆様のお力をお貸し下さい。

日程を含め、先輩住職方や総代会の皆様と共に詰めて参りたいと思います。

ご意見などお聞かせ下さい。

#### ● 記念品

数珠、風呂敷で検討しています。落慶法要に合わせてお配り致します。

#### ● 記念誌

開山五百年なので、当山の沿革を纏めておきたいと思っています。

## 「写真・思い出など募集」

記念誌に載せる写真や、参考になるエピソードなど募集いたします。ぜひご協力下さい。どんな小さなものでも構いません。お貸し頂ければ有難いです。



## ■平成二十一年行事予定

来年、通常通りの寺報を出そうと思っておりますが、またギリギリになってしまいそうなので、少し早いです。現在予定しているものを書いておきます。予定表にメモしておいて頂ければ幸いです。

五月の落慶法要ほかは、現在計画中です。  
日にちの変更があるかも知れません。

二月 七日 (土) 報恩講

八日 (日) 真宗寺院として一番大事な法会です

法縁を通して御開山親鸞聖人の恩徳を仰ぎます

三月 二十日 (金・祝) 春季彼岸(讚仏会)・永代経法会

仏様の遺徳を讃え 仏を鏡として私を振り返ります

五月 二十一日 (木) 本堂落慶法要

二十二日 (金) 開山聖人七五〇年御遠忌

二十三日 (土) 当山開山五百年記念法要

計画中

九月 二十三日 (水・祝) 秋季彼岸(讚仏会)・永代経法会

仏様の遺徳を讃え 仏を鏡として私を振り返ります

十一月 三日 (火・祝) 高田本山団体参拝

高田本山の納骨堂法会に参拝します  
豊橋市内・近郊の高田派寺院と共にバスを借りての日帰り旅行です

## ※後記※

○ 学生時代の担当教授は「逆に言う…」という言葉が口癖の先生でした。一つ方向からのアプローチで行き詰ったら、逆方向に考えると新しいアイデアが浮かび、解決する場合があります。

それは戻り道である場合が多いですが、来なければ良かったということにはなりません。だって戻り道は、同じ道でも景色が全然違っていいのですから。

○ 行った先で帰り道が分からなくなることがよくあります。方向音痴なのです。視覚に頼るものだから、来る時に見ていた景色の方向に進んで、どんどん遠くに迷ってしまいます。こんな人は、ときどき振り返って帰る景色を覚えるようにしないと駄目ですね。

○ 子がない等で永代経の相談をされる方が多くなってきました。それだけに、御先祖様に申し訳ない等の切実な問題を抱えておられます。

しかし少し待って下さい。どんな風に供養してもらえるかを考えていたら、この問題は解けないと思います。逆に「どんな風にこれからの人を供養してあげようか」と考える方が建設的だし、永代経の本意に沿うのだと思います。春秋の永代経法会では、先輩方の沢山のご苦労や、悲しみ・喜びを思い、その人たちに囲まれながら勤めようと心掛けております。

○ 御先祖様に申し訳ないと思う人は、既に御先祖様から許されている人だと思えます。本当に申し訳ない人は、そのことに心が向かない人だと思えます。その言葉にちよつとビックリした私は、ご先祖様を忘れていた申し訳ない人で、孤独になりがちな現代人でした。

「何で私ばかりが！」と自棄になる人と同じ心でした。

○ ご先祖様の本当の願いを見失ってしまったら駄目だと思います。

『私の願いはワガママ、仏の願いはソノママ』という法語があります。先々を心配し過ぎて今を見失ったら、それこそ叱られてしまいます。